

校訓・校章・校歌の方向性について

1 校訓等の方向性

論 点

「新たな校訓等を制定する」、「統合対象校の校訓等を引き継ぐ」、「校訓等を制定しない」等、どのような方向性が望ましいかという視点で協議する。

【統合対象校の校訓等】

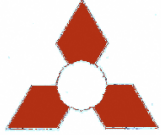
学校名	校 訓 等	
青森西 高校	校 訓	和
	教育目標	自 主（自立の精神を養い主体的に行動し得る実践的な人間）
		創 造（真理を愛し進取の精神に溢れた創造性豊かな人間）
浪岡 高校	校 訓	協 調（互いに人格を磨き友情を深め礼節を重んじる協調性豊かな人間）
		誠 実
		勤 勉
		友 愛

2 校章の方向性

論 点

「新たな校章を制定する」、「統合対象校の校章を引き継ぐ」等、どのような方向性が望ましいかという視点で協議する。

【統合対象校の校章】

学校名	校 章	
青森西高校	 制定年：昭和 3 8 年 図案者：不明	■中央の八稜鏡（はちりょうきょう）は、校訓の「和」を象徴し、三つの菱は、本校教育目標の「自主」「創造」「協調」を表す。 ■八稜鏡は、鏡縁が八弁菱花形をした鏡。中国では盛唐に最も発達し、わが国の奈良・平安時代の鏡にも取り入れられ、八花鏡とともに鏡体に変化を持たせる代表的な鏡。
浪岡高校	 制定年：昭和 3 0 年 図案者：不明	■南北朝時代の公家である北畠顕家公につながる中世以来の歴史ある青森市浪岡に因んで、北畠家で用いられていた「五三の桐」を校章とする。

3 校歌の方向性

論 点

「新たな校歌を制定する」、「統合対象校の校歌を引き継ぐ」等、どのような方向性が望ましいかという視点で協議する。

【統合対象校の校歌】

学校名等	歌 詞
青森西高校 作 詞：川島 東策 作 曲：小倉 尚継 制定年：平成10年	1 空にはばたく 大鵬の 宇宙を抱く 心持て 自主は試練の 道しるべ 創造は未来の 扉を開く 我ら和して学ぶ 共に幸を描き 母校 永遠のふるさと 青森西高校に 栄えあれ 2 季節綾なす 山並みを 仰ぎてここは 縄文の 北の自然に 抱かれて 平和な世界へ 願い一筋 我ら和して学ぶ 共に幸を描き 母校 永遠のふるさと 青森西高校に 栄えあれ 3 はるか旅路を 歩み歩き 真理の花の 咲くを見ん 胸に情熱 人に愛 清らかな心 生きる喜び 我ら和して学ぶ 共に幸を描き 母校 永遠のふるさと 青森西高校に 栄えあれ
青森西高校 (第2校歌) 作 詞：横山 武夫 (県副知事) 作 曲：木村 繁 制定年：昭和39年	1 天つ日の 光さやけし あたらしき 丘の学舎 ものなべて 強く息づき 乙女ごの 生命はぐくむ ああ自主は われら立つ道 創造の 鋭心みがき 清純の 誓いかたため 貫かん 貫かん 大いなる和を 2 峰八つを こころに仰ぎ 希望あれ 高くけだかく 東西の 潮寄る海や かぎりなき 前進ここに ああ自主は われら立つ道 創造の 鋭心みがき 清純の 誓いかたため 貫かん 貫かん 大いなる和を 3 丘の上の 三年の学び 不易の世界に 導きゆけり とどまらぬ 歴史のなかに 輝ける 伝統築かん ああ自主は われら立つ道 創造の 鋭心みがき 清純の 誓いかたため 貫かん 貫かん 大いなる和を
浪岡高校 作 詞：中村 惣次郎 作 曲：伊藤 伊一郎 制定年：昭和30年	1 東に甲田の峯高く 西に岩木が山聳え ひらける沃野のその中に 建てる白壁の高殿は これぞ吾等が学びの舎 2 松風薫る城のあと 歴史はかたるゆかりあり 浪岡川の水ゆるく 温故知新の誉こそ これぞ吾等が学びの地 3 岩木おろしのすさぶとも つどう吾等が心意気 真理を究め和を愛し 久遠の理想をうちたてん これぞ吾等がつとめなれ